



学部長ごあいさつ

保健医療学部長 片寄 正樹

例年よりも早く桜が開花した北海道ですが、桜の下で集う人々の楽しい声はCOVID-19の影響を強く受けた社会も少しずつ回復してきていることを感じさせてくれます。感染対策は継続しつつも自粛されてきた様々なイベントも再開してきていますが、本学でも4月に執り行われました入学式では3年ぶりに保護者の御臨席のもと、式典中のマスクは各自の判断として対面での開催とすることができました。コロナ禍での3年間の高校生活を経験しながらも本学部での学びを志してきた新入生の顔には、少しばかりの安堵とこれからの保健医療に向き合う強い決意と希望がみてとれたように思います。



こうして例年新入生を迎える保健医療学部も、本年2023年に学部開設30周年を迎えることになりました。1993年4月に北海道で初めての看護学、理学療法学そして作業療法学の4年制学部教育機関としてスタートした保健医療学部は、保健医療の高度専門化に応じた教育研究体制を先駆的に整備し続け、1998年に大学院を開設するとともに2012年には専攻科を配置し助産師・保健師の養成を進めてきました。この30年の歩みで輩出した学部卒業生は今年3月に卒業した27期生で2,533名であり、98名の博士号、382名の修士号、そして専攻科修了生234名を輩出するまでになっています。これらの実績と整備環境は学部教育の充実にも大きく貢献するとともに、卒業キャリアの多様な選択肢を広げることに繋がっています。保健医療学部では、この30年の歩みを振り返るべく記念誌の作成に加え、誌面に収まらない資料や動画を掲載した30周年記念特設ホームページを制作するとともに、記念式典の開催を計画しております。第一弾事業となります30周年記念誌はすでに大学ホームページにて公開しております。ぜひご覧をいただければ幸いです。保健医療学部の実績と多様な可能性をご覧になれるものと思っております。そしてこの記念事業を通し、我々教職員もさらなる充実した教育環境の整備を進めるとともに有意義な学生生活をサポートしながら保健医療の高度専門化に応じた高い実践力と心をもった保健医療人の育成に尽力していく所存です。また、30周年の節目となる今年は、改めて卒業生そして修了生という第一線で活躍する人財との連携支援を意識しながら邁進したく思っております。

保護者そしてご家族の皆様におかれましては引き続き感染予防にご配慮をいただき、本学へのご支援のほどお願いを申し上げます。

【令和5年度 学事予定】 (1~4学年)

4月 5日 ~ 4月 6日	新入生オリエンテーション
4月 13日	前期講義開始
6月 25日	大学記念日
7月 14日 ~ 7月 28日	前期定期試験 (4年生 看護)
8月 7日 ~ 8月 25日	夏季休業 (1・2・3年生)
7月 31日 ~ 8月 4日	'' (4年生 看護)
8月 14日 ~ 8月 18日	'' ('')
8月 7日 ~ 9月 8日	'' (4年生 理学)
7月 24日 ~ 8月 4日	'' (4年生 作業)
8月 28日 ~ 9月 15日	前期定期試験 (1・2年生)
8月 28日 ~ 9月 8日	前期定期試験 (3年生 看護)
8月 28日 ~ 9月 15日	前期定期試験 (3年生 理学・作業)
9月 25日	後期講義開始
10月 12日 ~ 10月 14日	体育祭
12月 1日	文化芸術祭
12月 18日 ~ 1月 3日	冬季休業
2月 13日 ~ 3月 1日	後期定期試験 (1・2年生)
1月 22日 ~ 1月 26日	'' (3年生 理学)
2月 13日 ~ 3月 1日	'' (3年生 作業)
3月 15日	卒業式



入学式



新入生オリエンテーション

学科長ごあいさつ

看護学科長 城丸 瑞恵



2023年3月17日(金)に卒業式が行われ、看護学科50名はみな晴れやかな笑顔で卒業しました。卒業生の内、37名は看護師として社会人になり、勤務先は札幌を含む道内が8割を占めていますが、東京・茨城・長野など道外を選択した人もいました。また本学の公衆衛生看護学専攻・助産学専攻への進学者もおりました。各自が本学の卒業生としての誇りを胸に、それぞれの道に希望を抱き進んでおります。

4月7日(金)には50名の新入生を看護学科に迎えました。一人ひとりの表情は緊張しつつも期待に満ちあふれていました。数日間に渡って行われた新入生オリエンテーションに積極的に参加し、また、看護学科・理学療法学科・作業療法学科合同授業の一つである「保健医療総論1」のグループワークにも元気に参加して学科内外の交流もしております。2年生は、疾病に関する理解や看護の方法について学ぶ専門基礎科目が増え、後期には札幌医科大学附属病院で実習があります。3年生は多様な領域の看護方法について学ぶ専門科目が増え、後期には本格的な実習が行われます。昨年度までは、COVID-19 感染の影響で臨地での実習と学内での実習を工夫しながら組み合わせて実施してきましたが、今年度は通常通り臨地での実習が増えることを期待しています。4年生は、引き続き専門科目を学習するとともに、「看護学研究」「看護技術総合演習」「看護統合実習」などの科目を通して既習の知識と技術を統合して4年間の総まとめを行います。これからも教職員一同、学生一人ひとりの個性や意欲を大事にしなが、豊かな人間性と高度な実践力の育成に向けて努力する所存です。保護者の皆様におかれましては、引き続きご支援よろしくお願いたします。

理学療法学科長 渡邊 耕太



本学ではここ数年でキャンパスの整備を進め、昨年秋にそれらが完成しました。学生の学びや生活に良い環境が整い、今春の新入生は新キャンパスの第一期生とも言えます。また、本年は保健医療学部の開設30周年にあたります。このように、令和5年は本学にとって節目であり、諸活動のアピールにも力を入れているところです。この文章を読まれている方は、おそらく大学やその取り組みに興味を持っていただいているものと思います。ぜひ、本学のホームページを開いてみてください。1ページ目では大学の紹介ムービーが見られます。8分ちょっととコンパクトにまとめてあり、活動や施設の概略を知ることができます。さらに、保健医療学部のページへ行くと、最近完成したばかりの30周年記念誌がアップされています。ここでは30年間のあゆみとともに、教職員や卒業生の活躍が紹介されています。

本学の歴史の中で一貫しているのは、世界最高レベルの医科大学を目指すことと、地域医療への貢献です。理学療法学科では、その特徴である少人数制、3つの学科と医学部のある総合医科大学、そして大学附属病院の隣接という環境をフルに活用し教育に尽力しております。学生には札幌医科大学で学んでいることに誇りを持っていただきたい。そしてこれからも、道民の健康を支えるという意欲を持つ人材、そして我が国の理学療法学のリーダーとなる人材を育てていきます。保護者の皆様におかれましては、本学の活動に引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

作業療法学科長 仙石 泰仁



新入生を迎え2023年度が始まりました。4月6日には学科のガイダンスで学生と教職員の対面式を行い、一人ひとり自己紹介をしてもらいました。これからの学生生活に不安とワクワクが入り混じった初々しい様子でしたが、仲間との絆を深め、多様な価値観を学ぶ大学生活を過ごしてくれることを期待しています。2~4年生は部活以外では学年を越えた関わりが、ここ数年ほとんど持っていない状況にありました。新年度に入って3年生を中心に1年生を歓迎し同じ志を持つ仲間と支え合おうと、オンラインでの歓迎会も予定されているようです。学生の中から自発的にこの様な取り組みが行われることに、大変頼もしく思っています。学年ごとでは、2年生は「生理学」や

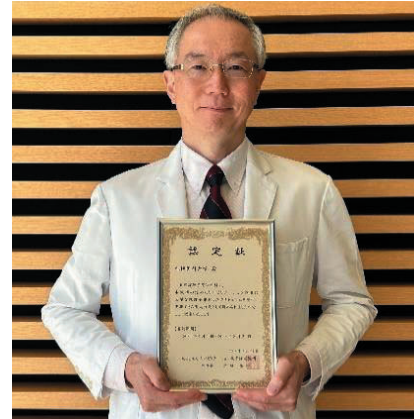
「解剖学」などの基礎医学科目に加え「作業療法評価学」といった作業療法の基本技術に関する科目が学習に入ります。3年生は各領域の治療学、評価実習など作業療法士としての基盤科目と臨床での実習が始まります。4年生は4月中旬より6週間×3回の病院実習がスタートし、卒論、国試、就職などのハードルも超えていく必要があります。学生たちには新しいことに挑戦し、自分自身をさらに成長させることができる1年になるように、教職員一同支援していきたいと考えています。

この3年間はコロナ感染症により学生も教員も様々な制約の中で過ごしてまいりましたが、4月からは対面での学習が基本的な形式となり、病院実習なども実施されます。これらの変化は感染が再度広がると制限される可能性があり、学生も教員も医療従事者としての自覚を持った一層の感染予防の意識化が必要と考えています。そのため保護者の皆様にも、より一層の感染予防にご協力いただきたく存じます。

リハビリテーション教育評価の受審について（理学療法学科）

准教授 山田 崇史

一般社団法人全国リハビリテーション学校協会会員校である本学では、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を5年に1度受審する必要があります。本審査では、我が国におけるリハビリテーション教育施設の質を保证するため、リハビリテーション教育プログラムの公正かつ適正な評価が行われ、その教育施設の優れている点や課題が抽出されます。具体的には、理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則に則り、「基準ⅠからⅦの25評価項目」について、書面ならびに実地審査が実施されます。この度、理学療法学科では、2017年（平成29年）以来2回目となる教育評価を受審し、「基準が全て満たされている」との理由から、適合（S判定）の認定証を授与いただきました（写真参照）。また、特に優れた点として、「全体的に組織的に教育運営をすすめている」との高評価をいただきました。



学科長：渡邊耕太教授

理学療法学科では、本学部の教育理念である「北海道の保健・医療・福祉の充実、ならびに学術の発展に寄与できる人材を育成する」を念頭に、4年間のカリキュラムを構成しています。また、本学科の特徴として、理学療法の専門領域を「運動器障害」、「神経障害」、「内部障害」、「発達障害」、「高齢期・地域理学療法」に分け、それぞれの領域ごとに、講義による知識の習得と演習・実習による技能の習得をシームレスに行う独自のカリキュラムを設定しています。さらに、3年次から各専門領域の研究室に配属され、少人数のゼミナールを行い、先進的な理学療法の応用可能性に触れながら、自己研鑽と能動的学習の重要性を感受します。これらを通じ、科学的思考力と問題解決能力を養うことで、科学的根拠に基づく理学療法の確立と実践を目指した科学リテラシーを有する人材の育成を目指しています。この度の教育評価受審では、これらのポリシーに基づく教育実践が高く評価されたものと考えております。保護者の皆さまにおかれましては、本学の教育活動に対し引き続きご理解とご支援をお願いできれば幸いです。

令和5年度を迎えて

教務委員長（理学療法学科 教授）小塚 直樹

長らく続いた新型コロナウイルス感染症に関する規制が徐々に緩和される中、COVID-19と適切に共存しながら、本学部の教務活動も展開していく時期が到来したものと考えています。新しくなったキャンパスには学生が集い、大学としての本来の姿が戻ってきました。4月からの授業（講義、演習、実習）は、対面形態となりました。ゴールデンウィークを経過した現在、感染症に関連する大きな問題の発生はありません。臨床実習に関しては、各学科での事情が少しずつ異なるため、全く元通りという訳ではありませんが、ほぼ以前の状態に戻りつつあります。現場で学べる臨床実習は医療者養成のためには欠かせない学修時間であり、多くの良質な経験を得ることに期待しております。

「医療者が人と接することによって多くを学ぶ」ことをコンセプトに、この春に卒業した4年生を対象として、在学時の令和4年12月に、「医療接遇特別講演会」を特別セミナーとして開催いたしました。接遇関連の業界では、全国の医療機関・教育機関やその他において接遇コンサルティングや接遇研修を積極的に行うなど第一線でご活躍されている、札幌市在住の椿 武愛子（つばき むつこ）先生に講師をご担当いただき、3時間の実務的な研修を行いました。終了後、4年生から寄せられたアンケートには「基本的な接遇に加え、医療現場における接遇スキルを学べた」等、有益であったことを述べる多くの回答が集まりました。現在、それぞれが向かった新しい社会の中で、実践として活用出来ているのではないかと思います。令和2年度にカリキュラムが改正され、今年度進級した4年生からは「キャリアデザイン」という



医療接遇特別講演会の様子

授業の中で、今回のような接遇に関する内容が教授されており、接遇については勿論のこと、自分自身が将来どのような医療職となるのか、そのビジョン形成に働きかけ、主体性と責任感を持つ医療職の人間力を養成する授業が3学科合同で3年次に開講されています。

今年度の授業については、関係各機関、学内決定機関の判断に基づき、その形態等については慎重に判断しながら進めてまいります。学生個々の日々の体調管理はもちろんのこと、基本的な感染防止行動に大きな変更はないので、大学側からの指導と共に、ご家庭からのご指導も引き続きよろしくお願いいたします。

保健医療学部学生表彰

保健医療学部では、毎年度、本学部を卒業する学生と進級制限が設けられている2年生を対象に、学業成績および人物が優秀で他の範となる学生を最優秀者、優秀者として表彰する制度を設けています。

令和4年度第2学年においては以下の学生が表彰されました。

☆菅原 凛（看護学科・最優秀賞）

この度は、看護学科の最優秀賞を頂くことができ、大変嬉しく思います。コロナ禍で迎えた大学生活に中々慣れることができず、不安や焦りを感じたことも多くありましたが、その中でも学びを継続することができたのは、熱心にご指導して下さった先生方や共に学ぶ友人、応援してくれている家族のおかげであると感じています。支えて下さる方々への感謝の気持ちを大切に、今後もより一層学習に励んでいきたいと思っております。



片寄学部長を囲んで（左から、町田さん、恒川さん、工藤さん、菊地さん、黒滝さん、菅原さん）

☆工藤 菜乃花（看護学科・優秀賞）

この度は看護学科優秀賞という名誉ある賞をいただきまして光栄に思います。入学当初、緊張や不安であたふたしていた私が、2年を経てこのような賞をいただけたことに正直とても驚いています。共に頑張る仲間や支えてくださる教員の皆様、応援してくれる家族の存在のおかげで成長することができたのだと思っております。本当にありがとうございます。これからも初心を忘れず、有意義な学びを積み重ね、充実した学生生活を送っていききたいと思います。

☆黒滝 杏樹（理学療法学科・最優秀賞）

これまでの大学生活は人との繋がりに強い価値を感じた2年間でした。今回このような賞を頂けたことも私個人の力ではありません。共に学び、成長してきた同期の友人たち、指導して下さった先生方、支えてくれた家族や祖父母がいてくれたおかげです。私はまだまだ未熟で足りない部分も多いため今後も周囲の人、環境に感謝を忘れず、まじめに勉学に励み、人として成長していきたいと思っております。この度は最優秀賞を頂き、ありがとうございます。

☆恒川 新（理学療法学科・優秀賞）

この賞を頂くまでにご指導いただいた先生方、支えてくれた家族や友人たちにとっても感謝しています。入学してから丸2年経ちますが、良い同期に恵まれて、勉強も私生活も充実して楽しい日々を過ごしていることを実感しています。これからも実習や国家試験、進路の決定などに向けて今まで以上の課題に苦戦しながらも挑んでいくことになるだろうと思っておりますが、これまでよりも気を引き締めていきたいと思っております。

☆菊地 音羽（作業療法学科・最優秀賞）

この度は大変名誉ある賞を頂き、とても嬉しく思います。最優秀賞を頂くことができたのは、私個人の力ではなく、入学当初から親身にご指導して下さった先生方や、励まし合い高め合った仲間、陰ながら応援してくれた家族をはじめとする私を支えてくれた全ての方々のおかげです。この賞に恥じぬようこれからも努力を惜しまず頑張っていきます。

☆町田 静穂（作業療法学科・優秀賞）

この度は作業療法学科の優秀賞をいただき、大変嬉しく思います。このような賞を受賞できたのは日々丁寧に指導して下さる先生方や共に課題や実習などに取り組み支え合える同期、応援してくれる家族などたくさんの人の支えがあったからこそです。心より感謝いたします。今後はより専門的な知識を身につけ、支えて下さる周りの人々たちへの感謝を忘れず、この賞に恥じぬよう、努力を重ねていきたいと思っております。

令和4年度卒業生の国家試験合格状況

- 看護師国家試験は50名が受験し、49名が合格しました。（合格率98%）
- 理学療法士国家試験は19名が受験し、18名が合格しました。（合格率94.7%）
- 作業療法士国家試験は21名が受験し、19名が合格しました。（合格率90.5%）
（※既卒者1名含む。既卒者1名を除いた合格率：95%）



※合格率（全国平均）

●看護師国家試験… 90.8%

●理学療法士国家試験… 87.4%

●作業療法士国家試験… 83.8%

